

JET プログラム参加者の 母国・日本での活躍

2021 年度で 34 年目を迎える語学指導等を行う外国青年招致事業（JET プログラム：The Japan Exchange and Teaching Programme）は、世界各国の外国青年を招致し、自治体において任用することで、外国語教育の充実や地域レベルでの国際交流を推進する事業である。

クリアでは、総務省、外務省、文部科学省と連携し、JET プログラムを推進している。

JET プログラムの参加者は、外国語指導助手（ALT：Assistant Language Teacher）、国際交流員（CIR：Coordinator for International Relations）やスポーツ国際交流員（SEA：Sports Exchange Advisor）として全国の自治体で活躍し、地域の国際化に貢献しているが、自治体での任期終了後もその経験を活かし、日本国内や母国でキャリアを伸ばすとともに、草の根の国際交流を進めることにより JET プログラム全体の価値向上に貢献している。

今回の特集では、JET プログラム経験者の母国での活躍事例を紹介するとともに、JET 経験者で組織されている「JETAA」、県人会の JET プログラム版である「KenJETkai」の紹介および現役 JET 参加者の活躍事例を報告する。

〔(一財) 自治体国際化協会 JET プログラム事業部〕

JET プログラム参加者の職種

外国語指導助手

(ALT：Assistant Language Teacher)

学校教育の外国語授業において、外国語や出身国の文化学習を通して、児童生徒の外国への興味・関心を高める指導助手として活躍。

国際交流員

(CIR：Coordinator for International Relations)

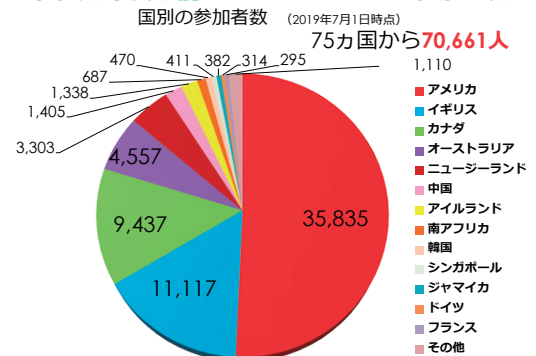
高い日本語能力を活かして、任用団体の観光インバウンド戦略や多文化共生に係る取り組みなどのサポーターとして多方面で活躍。

スポーツ国際交流員

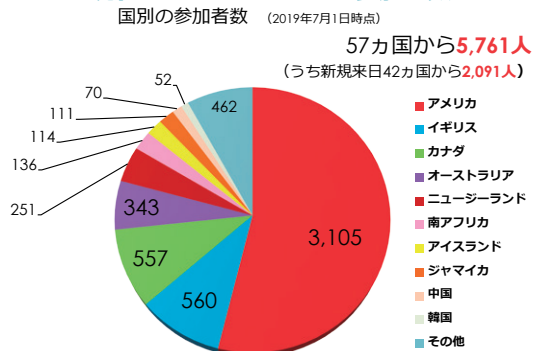
(SEA：Sports Exchange Advisor)

母国において特定のスポーツ指導で特に優秀と認められている者として推薦されており、スポーツ関係の指導を通しての国際交流活動で活躍。

令和元年度以前の JET プログラム 参加者数



現在の JET プログラム 参加者数



1

文化で絆を作ろう
—田舎からローライゼーションの世界へ—

VIZ Media ジェニファー・シャーマン

はじめに

大学へ入学するため、実家から遠く離れた場所へ引越した過去の思い出を夢で見た。一人で遠く離れた場所へ引越すのは無理だと思っていた。しかし、約10年後にさらに遠い場所へ引越すことになるとは、その当時の私にはまだ予想していなかった。また、そのような冒険が私の人生で最高の出来事となることも夢にも思っていなかった。

私の世界はオハイオ州の田舎から徐々に広がった。他国の文学やエンタテインメントに興味があり、特に日本のポップカルチャーに興味を持ち、大学に入学してから日本語を勉強し始めた。大学入学当初は、獣医になることを考えていたが、大学の職員からJETプログラムの話を聞いて、「決めた！これが私の次の目標だ。」と考えを固めた。

JET プログラムでの経験

2012年からJETプログラムに参加し、三重県御浜町で暮らし始めた。「年中みかんのとれる町」である御浜町で外国語指導助手(ALT)として3つの中学校と4つの小学校で勤務し、英語やアメリカの文化などを元気な子供達に教えることができた。



学校で干し柿づくりに挑戦

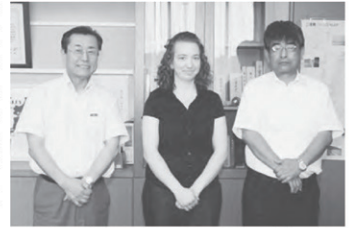
御浜町のみなさん初めまして！

今度きれいな御浜町に来ることになったジェニファー・シャーマンです。米国オハイオ州、五大湖のエリー湖とクリーブランドの近くの町、エリリア (Elyria) 出身の25歳です。

オハイオは、都会でも農地がいっぱいですが、この地域のような山や海がありませんので、御浜町の自然はとても美しいと思います。

日本語は2008年にオベリン大学で学び始めましたが、まだまだ勉強中ですので助けていただきますようお願いいたします。日本で、日本語や日本文化について学ぶことを楽しみにしています。

読書、執筆、音楽、自然、動物などが好きで、米国の日本大衆文化のウェブサイト



左から古川町長、ジェニファーさん、田岡教育長

御浜町の「広報みはま」より



生徒たちと一緒に開催したクリスマスパーティー

もともと控えめなタイプであった私は、日本で暮らすうちに、いろいろなことができるようになり、自分に自信を持つことができた。

その中で、日本語や日本文化を学び、他国から同じJETプログラムに参加した仲間と出会って視野も広がっていった。

周りの方々の厚いサポートのおかげもあり4年間、JETプログラムに参加することができた。親切にしてくれた御浜町の皆さんには感謝を言いたい。この経験は、私の人生の中で忘れることのできない出来事である。

現在の仕事

現在も異文化理解を広めるための仕事をしている。2016年にJETプログラムを終了し、オハイオ州へ戻ってから、アニメ・ニュース・ネットワークで、日本のア

ニメ、漫画、ゲームなどについて英語で記事を書いて配信をしていた。また、フリーランスの編集者としてライトノベルや漫画の編集を行い、自分の手で新しい読者の開拓を行い、日本の素敵な作品をアメリカで紹介することができた。

このような仕事がきっかけとなり、ローカライゼーションの世界に入った。ローカライゼーションとは、ある国で生まれたものを、使用する別な国の言語や文化・環境に適合させることである。

世界中の人々が作品を楽しむために、作品が生まれた国の人々と同様の体験や感動をえることができるように、より詳しい世界観を翻訳し伝えることが大事である。

JETプログラムと同様、ローカライゼーションは価値観や文化・慣習の異なる人々を結びつける重要な役割を担っていると思う。

例えば、地球の裏側に住んでいる民族についてあまり理解していなくても、その地域の作品を使うことで種々雑多な人たちに理解を促すことができる。

これからもローカライゼーションという職業を続けたいと考えている。

今年、VIZ Media社の日本漫画に関する編集者となったことから、さらに英語で日本の文化を伝えたいと思っている。VIZ Media社は集英社や小学館と商業的な関係があり、「鬼滅の刃」「ナルト」「鋼の錬金術師」「呪術廻戦」など多くの有名な日本漫画を英語版として出版している。



勤務先からの贈り物

JETAAでの活動

私生活では、帰国後、JETAA（元 JET 参加者の会）に参加をすることで米国内の JET 経験者とも知り合うことができた。また、JETAA の Great Lakes 支部の役員となり、JET プログラムを終了して米国へ帰国した人たちの支援や JET プログラムに興味をもってもらうためのイベントなども行っている。

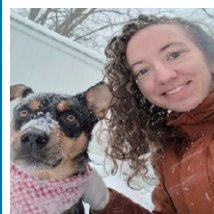


Great Lakes 支部のレクリエーション（動物園にて）

もし私が JET プログラムの参加者ではなかったならば、今の私は全く別の人生を歩んでいたと思う。

JET プログラムに参加し、日本で暮らすことは何千人もの人生に大きな影響を与えていると思うと、いつまでもこのプログラムが続くように微力ながらこれからも応援をしていきたい。

プロフィール



Jennifer Sherman

(ジェニファー・シャーマン)

アメリカのオハイオ州出身。大学時代 2010 年に東京と大阪に留学。オーバリン大学卒業後、2012 年から 2016 年まで三重県御浜町の ALT として勤務。

JET プログラム終了後は、ローカライゼーション編集者として大衆文化を広めることを通じて、世界の人々を繋げる仕事をしている。

趣味は、ペット、読書、アニメ、ベジタリアン料理など。

2

新たな道を開いてくれた JET プログラム

(財)水原市国際交流センター キム・スヘ

JET プログラムでの経験

先日、水原市内にある大学から日本語を専攻している学生向けに国際交流の仕事と JET プログラムの経験談を聞かせてほしいとの依頼を受け、発表資料の作成のため徐々に国際交流員として働いていた記憶を 1 つ、2 つ思い浮かべながら、何だか癒される気分になった。帰国してからも 10 年も経つが、富山県で過ごした 3 年間の記憶は豊かな経験とともに人生の新しい道を開いてくれた意味のある時間であり、今もささやかな日常の中で私に元気を吹き込んでくれている。

2007 年 4 月富山県国際課に赴任し、通訳・翻訳や観光アテンド、学校訪問での韓国文化理解講座、とやま国際センターでの韓国語講座やイベント企画などさまざまな業務を担当していたが、その中でも韓国訪問団の県内視察の随行通訳は、韓国と似たようで違う日本の社会文化を垣間見ることができ、興味深い経験となった。

日本の北アルプスとも呼ばれる 3,000 メートル級の立山、世界文化遺産の五箇山合掌造りなど観光 PR のための旅行エージェンシーやメディア招へい事業だけではなく、環境面から優れた交通手段を持つ富山県の環境政策や昔の合掌造りの家屋を改造した利賀芸術村での世界演劇祭、地場産業のガラス工芸や江戸時代から受け継がれている富山の売薬など都市の所々に込められたストーリーを韓国で紹介するたびに、いつも日本の中でまた新

しい日本に出会うような気がして、自然と地域文化や交流にさらに関心をもつ機会となった。

JET プログラム終了後の人生と現在の役割

大学で貿易を専攻し、JET プログラムに参加する前も日系企業で約 2 年間輸出入業務を担当していたので、帰国後のキャリアについて悩みがあった。しかし、CIR として富山県で働きながら現地の人々だけではなく、多様な国の人々とも触れ合うことがとても好きだったし、その地域の歴史や文化を海外の人々と分かち合う仕事にやりがいや魅力を感じていたので、帰国してからも JET プログラムの経験を活かし、自治体の国際交流の仕事を続けていけたらいいと思っていた。

そして JET プログラムがターニングポイントとなり、現在は、韓国の自治体である水原市（スウォン市）の民間交流を行う（財）水原市国際交流センターで働いており、今年でもう 10 年近くなる。

水原市は世界文化遺産として登録されている「水原華城」とグローバル企業である「サムスン」の本社が位置しており、過去と現在が調和を成している都市で 14 カ国 18 の姉妹・友好都市を中心に海外のさまざまな都市との交流を進めている。

私は主に日本との交流を担当しており、色々な都市との草の根の交流を通じて水原市の魅力を海外に広めたり、水原市民と在住外国人と一緒に触れ合い、多文化共



富山県の JET 参加者たちと一緒に企画し、出演していた「チャリティーショーミュージカル」



第 56 回水原華城文化祭の際に企画した姉妹・友好都市公園団招へい事業の「国際姉妹都市の夕べ」のイベント



静岡市大学生水原招へい事業で行った水原華城見学案内

生を囲める交流プログラムを企画し実施している。

姉妹・友好都市である北海道旭川市、福井県福井市との文化芸術交流だけではなく、静岡市との大学生相互交流、富山県富山市やさいたま市との市民言語交流などさまざまな自治体と幅広い交流を進めている。

特に、入社後、初めて海外市民研修として企画した富山市民との交流は、JET プログラムでの経験が水原市と富山市の架け橋となり、その縁が今も続いており意義深くやりがいを感じている。

最近は、新型コロナウイルスにより多くの訪問交流が中止となっている状態ではあるが、Zoom を利用することでオンライン上で今まで以上の活発な交流を続けている。



水原市民を対象に初めて企画した日本語文化研修(富山市民と一緒に立山にて)



水原-富山オンライン交流

JET プログラムが与えた影響

財団の発足と同時に勤務することになり、最初は大変なことも多かったが、CIR として国際交流の現場で積み重ねてきた経験があったからこそ、今の仕事にさらに楽しく自信を持って臨むことができたと思う。

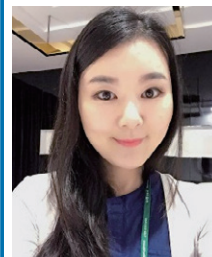
県庁の職員として、または韓国語の講師として、たまに通訳やガイド、そして異国での外国人として暮らしていた JET プログラムでの経験は、多様な角度から考え、ニーズに沿えられる交流事業を作り上げていくことにおいて、今も頼もしい土台になってくれている。

2020 年からは業務領域が広がり、水原市がカンボジアで行っている国際協力事業にも関わっている。これからも今までの経験を活かし、様々な世界と向き合いながら自分の世界を広げていきたいと思う。



カンボジアの「プノンクロム水原村」にある水原中・高校の生徒たちと一緒に

プロフィール



김수혜
(キム・スヘ)

京畿道驪州市出身。大学で貿易を専攻し、日本語を副専攻。卒業後は日系企業で2年間勤務。富山大学で交換留学をしていた

頃、県内の JET 世界まつりにボランティアとして参加したことをきっかけに JET プログラムに興味を持ち、いろいろな人々と触れ合う国際交流の仕事に魅力を感じ JET プログラムに応募。

帰国してからは、(財)水原市国際交流センターで国際交流や国際協力事業を担当している。

3

私のキャリアに影響を与えた JET プログラム

元ホワイトハウスと米国エネルギー省政策アドバイザー ジェイコブス・エリック

はじめに

私は 2013 年から 2016 年まで神戸市で外国語指導助手 (ALT) として英語の授業などに携わった。その後、日米関係の仕事や米国政府の仕事に従事してきた。JET プログラムでの経験は、ホワイトハウスでの仕事にも強い影響を与えてくれた。

JET プログラムに参加するきっかけは 2011 年である。私は、この年の 1 月からテンプル大学ジャパンキャンパスに留学していた。そして、3 月 11 日に東日本大震災を経験した。

日本語がよく分からず、上手く話すことができなかった私は、3 時間ほどかけて 1 人で大学から自由ヶ丘にある寮まで歩いて帰った。帰路の途中、多くの日本人が私を助けてくれた。

それ以来、日本は私の人生において重要な存在となった。残念ながら 3 月 15 日に帰国したので、初めての日本生活は約 2 か月で終了した。そこで、もう一度日本の伝統文化を勉強することや日米関係に関連する仕事をする事、そして私を助けてくれた日本人へお礼を言うために日本へ戻りたかったので、JET プログラムに参加した。



ALT 時代、運動会で中学生と一緒に騎馬戦に参戦

JET プログラムを終了後の人生

2013 年、米国から神戸市へ引っ越した。3 年間の

JET プログラム参加中に多くの生徒や先生達と知り合う機会があり、日本の文化や礼儀作法などいろいろなことを学ぶことができた。神戸市での生活はとても楽しかったが、米国の国際関係や日米関係の仕事に携わりたいと考え、2016 年に米国へ帰国した。

帰国後、ジョージタウン大学の大学院生としてアジア研究プログラムを受講しながら、戦略国際問題研究所 (CSIS) の日本部に勤めた。

そこで、元内閣総理大臣の福田康夫さんと会う機会があった。大学院在籍中には、豪国で米豪関係や日豪関係などの国際関係を学ぶ機会があり、この時、日米関係や太平洋における米国の同盟関係についての仕事をしたいという思いが強くなった。

また、これまで学んできた国際関係を活かした仕事に就きたかったことと当時の政権下で働いてみたいと思ったことから、ホワイトハウスインターンシッププログラムに申し込んだ。

このプログラムに参加する際の面接では、JET プログラム参加中の思い出や日本と米国の学校について異なる点、JET プログラムの経験がどのようにこのインターンシッププログラムで役立つと思うかを尋ねられた。

幸運にもホワイトハウスで勤務する機会をえることができ、さらに、ペンス副大統領が日本を公式に訪問する際の業務や色々な日米関係に関する記事を書く機会を与えられた。

ホワイトハウス・米国科学技術政策局での勤務

2017 年、麻生太郎副総理大臣とペンス副大統領との日米経済対話第 2 回会合支援として、さまざまな調査をし、報告書を作成してペンス副大統領のスタッフへ提出した。また、この会合に同席することもできた。

2018 年、ペンス副大統領の訪日準備のために、私は日本を訪れることとなった。この特別な業務を行うにあたり、JET プログラム参加中に教えてもらった日本文化や礼儀作法などを、今度は私が同僚へ教える立場となった



東京にて、ペンス副大統領専用リムジンと撮影



ALT 時代、小学生や先生たちと一緒に餅つきをしている様子



ホワイトハウスで日米科学技術研究開発協力協定に基づく第 14 回合同高級委員会に参加

た。私にとって、この準備期間は特別な経験となった。
例えば、官邸や公邸、外務省、防衛省を訪問したこと。また在日米国大使館で米国大使に会うこともできた。日米関係における業務を永田町でするとは夢にも思わなかった！

2019 年、米国科学技術政策局の政策アドバイザーとなり、日米科学技術研究開発協力協定に基づく第 14 回合同高級委員会の幹事も務めた。その時、私は新たな日米の歴史を創ったと感じた。日米の科学と技術の戦略的な連携や政策の連携について学び、日本の 2 人の大臣と出会えた事は忘れられない思い出である。

2020 年にホワイトハウスを去り、米国エネルギー省で政策アドバイザーとして 2021 年の 1 月まで勤務した。

その後は、日米科学技術に関する執筆活動を行い、USJETAA のホームページにも掲載を行った。(https://usjetaa.org/wp-content/uploads/2021/04/jacobs-usjetaa-1.pdf)

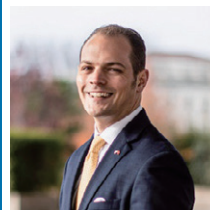
これからの JET プログラム

これまでを振り返り、JET プログラムの経験は、私の国際関係業務や日米関係業務に大きな影響を与えたと思う。これからの仕事も日本を含む国際的なものとなるだろうし、JET プログラムに参加した経験と私の生活は切っても切れない関係となるだろう。

最後に、これまでいろいろな経験ができたのも JET プログラムと関わることができたからだと思う。

これからも JET プログラムが発展することを期待している。

プロフィール



Erik Jacobs

(ジェイコブス・エリック)

出生地：米国、ペンシルベニア州チェンバーザバーグ

JET プログラムの志望動機：も

う一度日本の伝統文化を勉強することや日米関係に関連する仕事をする事、私を助けてくれた日本人へお礼を言うために日本へ戻りたかった。

2011：テンプル大学ジャパンキャンパスに留学

2013：テンプル大学卒業

2013 - 2016：JET プログラムに参加

2016：ジョージタウン大学でアジア研究プログラムに参加

同 年：戦略国際問題研究所 (CSIS) に勤務

2017：ホワイトハウスでインターンシップ

2018：米国科学技術政策局勤務

同 年：ジョージタウン大学でアジア研究の修士号を取得

2020：米国エネルギー省勤務

2021：米国エネルギー省を退職し、現在は執筆活動を行っている

4

JETAA を通した国際交流活動

(一財) 自治体国際化協会 JET プログラム 事業部調整課



JETAA とは

JETAA とは、JET プログラムを終了した元 JET プログラム参加者（JET 経験者）が自主的に設立し、日本文化の紹介活動や自治体代表団の海外派遣における側面支援などを行っている組織で、世界各地で自発的に形成した同窓会組織のことである。自治体が国際展開する際の強力なサポート団体となりうる存在である。

現在、日本を含めた 18 の国と地域で活動しており、その支部数は 53 支部、会員数は 2 万 2,000 人以上にのぼる。

国名	会員数	国名	会員数
アメリカ	約10,200人	ニュージーランド	約660人
カナダ	約3,100人	日本	約860人
イギリス	約2,500人	南アフリカ	約720人
オーストラリア	約2,000人	アイルランド	約520人

18 カ国 53 支部 約 22,000 人

JETAA の主な国別会員数（2020 年 8 月末時点）

JETAA の歴史

JET プログラムが開始された 1987 年から 2 年後の 1989 年に AJET（JET プログラム参加者の会）により、JET プログラムの任期を更新せずに帰国する JET 経験者のための事業が検討された。

この際、AJET 千葉県代表スコット・オリンガー氏により、JETAA 設立の提唱がなされ、1989 年 4 月に京都で開催された「契約更新者会議」において、JETAA の設立が決定された。

その際に JETAA の活動目標が以下のとおり定められた。

- ① 地域レベルにおける国際化の推進
- ② JET プログラム経験者のネットワークをつくり帰国者に就職と進学に関する情報の提供を行うこと
- ③ JET プログラム経験者相互間の情報交換を円滑にすること
- ④ JET プログラムに対する協力と未来の JET プログラム参加者の選定を支援すること

また、JET 経験者や JETAA 支部のための情報やサービスの提供・支援、JET 経験者に関する問い合わせを受け付け、JET 経験者コミュニティと繋げる窓口として、「JETAA 国際委員会（JETAA-I：JETAA International）」が設立され、現在でも活発な運営が行われている。



JETAA ジャマイカ支部の元会長ショーン・アーロンズ氏。ジャマイカが JET プログラムへの参加から 20 周年を迎えるオンライン記念式典にて基調講演を行っている様子（2020 年 11 月 20 日）

主な活動内容

支部ごとにさまざまな活動を行っているが、共通する主な活動は以下の4点である。

(1) 草の根レベルの国際交流

ア 日本文化の紹介イベント

海外で日本文化を紹介するため、JETAA 支部が主催となり、日本関連イベントへのブース出展や、夏祭りなどのイベントを開催している。

イ 日本との交流活動

日本から訪問した団体や学生との意見交換や、姉妹都市交流の支援を行っている支部もある。

ウ 現地の日系機関との交流

ジャパンソサエティや日本政府観光局 (JNTO) などの日系機関と、イベントなどを通じて、草の根レベルでの交流を行っている支部もある。

(2) 災害支援・寄付活動

東日本大震災、熊本地震、平成 30 年 7 月豪雨などの災害の際に、JET 参加者の安否確認、募金活動、被災地でのボランティア活動などを行っている。

(3) JET プログラムの支援

ア 大学などでの広報活動および JET プログラム採用活動の支援

JETAA 支部では、総領事館などと協力し、JET プログラムの広報や募集説明会、JET プログラム採用活動の支援などを行っている。JET プログラムの応募が行われる時期になると、大学などで JET プログラムの募集説明会を行っているほか、総領事

館で行われる採用面接のサポートなども行っている。

イ 出発前オリエンテーションの支援

毎年、総領事館などが主催となり、新しく日本に出発する JET 参加者に訪日スケジュールや日本での注意事項などを説明する出発前オリエンテーションが行われており、JETAA 支部では、同オリエンテーションに説明者として参加するなどの支援を行っている。

(4) 新規帰国者の支援および JET 経験者同士の互助

ア 帰国者歓迎レセプション

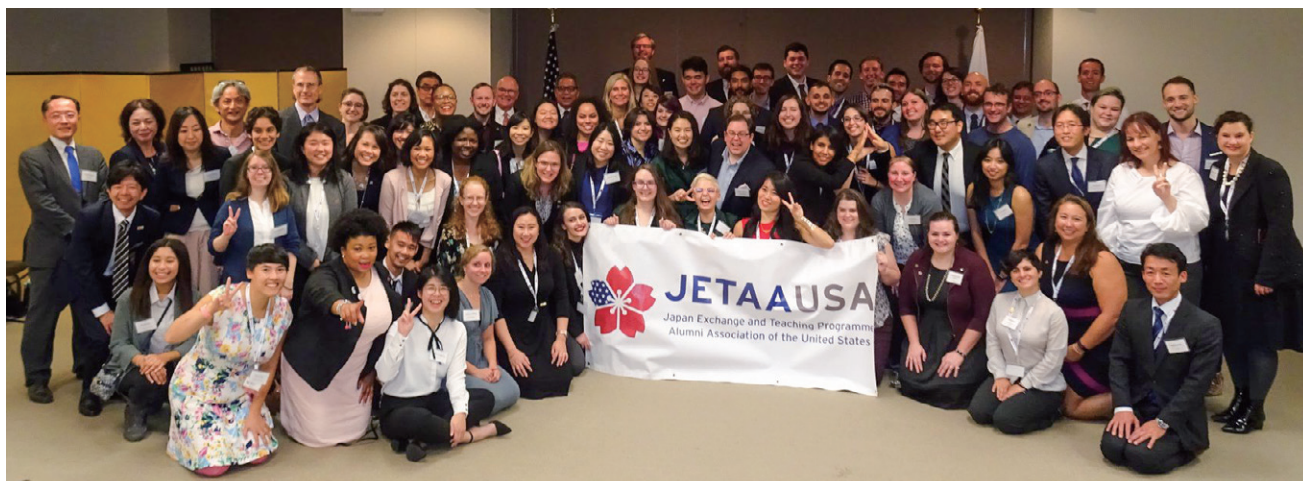
毎年、総領事館などが主催となり、帰国した JET 参加者向けに帰国者歓迎レセプションが行われている。JETAA 支部では、同レセプションに参加し、逆カルチャーショックを和らげるために新規帰国者へのアドバイスや、母国の生活や社会に馴染むための有意義な情報をえるリソースとして JETAA 支部の紹介を行っている。

イ 就職支援

帰国した JET 経験者向けにキャリアフォーラムを開催し、帰国後の就職情報の提供や、リクルート会社の紹介などを行う支部もある。

ウ ネットワーキングイベント

JET 経験者同士の横のつながりの強化や、JETAA 支部と日系機関などとの交流を深めるためのさまざまなイベントの開催も、JETAA 支部の主要な活動の 1 つである。



JETAA アメリカ地域会議 (2019) イリノイ州シカゴで開催された会議に出席するアメリカ 19 支部の代表者たち

KenJETkai とは

JET プログラムを終了した JET 経験者は世界中で日本との懸け橋として活躍しており、多くは世界各国・地域の同窓会である JETAA に参加している。

前述した JETAA の各支部を繋ぐ組織として JETAA-I が存在し、JETAA-I の Facebook ページ内に、都道府県ごとのグループである「KenJETkai (ケンジェットカイ)」が、近年多数立ち上がっている。

都道府県	グループ名称	メンバー数
北海道	Hokkaido KenJETkai	162
青森県	Aomori KenJETkai	48
岩手県	—	0
宮城県	Miyagi KenJETkai	41
秋田県	—	0
山形県	Yamagata KenJETkai	5
福島県	Fukushima KenJETkai	45
茨城県	—	0
栃木県	Tochigi KenJETkai	71
群馬県	Gunma KenJETkai	42
埼玉県	Saitama KenJETkai (Saitama JET Alumni Group)	60
千葉県	Chiba KenJETkai	57
東京都	Tokyo-To JETkai	63
神奈川県	Kanagawa KenJETkai	15
新潟県	Niigata KenJETkai	59
富山県	Toyama KenJETkai	586
石川県	Ishikawa KenJETkai	64
福井県	Fukui KenJETkai	123
山梨県	Yamanashi KenJETkai	80
長野県	Nagano KenJETkai	79
岐阜県	Gifu KenJETkai	71
静岡県	Shizuoka KenJETkai	288
愛知県	Aichi kenJETkai	16
三重県	Mie KenJETkai	38
滋賀県	Shiga KenJETkai	180
京都府	Kyoto-fu KenJETkai	5
大阪府	Osakafu KenJETkai	71
兵庫県	Hyogo KenJETkai	117
奈良県	—	0
和歌山県	Wakayama KenJETkai	32
鳥取県	Tottori KenJETkai	65
島根県	Shimane KenJETkai	109
岡山県	Okayama KenJETkai	46
広島県	Hiroshima KenJETkai	125
山口県	Yamaguchi KenJETkai	7
徳島県	Tokushima KenJETkai aka Tokushima JET Alumni	237
香川県	Kagawa KenJETkai	36
愛媛県	Ehime KenJETkai	73
高知県	Kochi KenJETkai	179
福岡県	Fukuoka KenJETkai	58
佐賀県	Saga KenJETkai	66
長崎県	Nagasaki KenJETkai	147
熊本県	Kumamoto KenJETkai	204
大分県	Oita KenJETkai	84
宮崎県	Miyazaki KenJETkai	223
鹿児島県	Kagoshima KenJETkai	142
沖縄県	Okinawa KenJETkai	168
議論グループ	KenJETkai Discussion Group: Re-Connect with Your Home Prefecture	147
管理者グループ	KenJETkai Administrators & Imagineers	20
総計	43+2	4554

KenJETkai の都道府県別参加者数 (2021 年 4 月時点)

KenJETkai は、JET プログラムを終了した JET 経験者が、任用されていた都道府県単位で活動する Facebook 上のグループ (県人会の JET プログラム版) である。

KenJETkai の積極的な活用を!!

KenJETkai は、JET 参加者および関係者がつながれる場となっているため、現役 JET 参加者、取りまとめ団体および任用団体はもちろん、JET プログラムの関係者であれば、どなたでも気軽に参加可能となっている。

地域限定の広告出稿が可能となっており、帰国した経験者への観光 PR や任用された地域に残っている JET 人材の雇用など、世界中にいる JET 関係者間の更なる連携強化に向けた取り組みが可能である。

自治体にとって、今後新たな広告や連携のフィールドが広がる可能性があるため、各都道府県においてはより一層のご活用をお願いしたい。

KenJETkai へのアクセス方法

- ① Facebook のアカウントを登録
- ② KenJETkai のリンク (<https://www.facebook.com/kenjetkai/>) を開く
- ③ グループメニューを選択
各 KenJETkai グループ (一部非公開) の一覧が表示されます。



KenJETkai の Facebook ページ

JETAA-I の HP (英文のみ)

<https://www.jetaainternational.org/>

KenJETkai の HP (英文のみ)

<https://www.jetaainternational.org/kenjetkai>

小さな離島の村「三島村」

三島村は、鹿児島県の薩摩半島から南へ約 40 キロの洋上に点在する三つの島からなる村である。

- ① その名のとおり島全体が竹に覆われている竹島。
- ② 火山が火を噴き、数多くの伝説が残る硫黄島。
- ③ 豊かな森林に覆われ「ミニ屋久島」とも称される黒島。

この 3 つの島を合わせて「三島村」というのだが、全く違う表情を見せて横に並んでいる 3 つのかわいい島は、地図をよく見ないと見落としてしまうかもしれない。

人口は約 380 名。「交通手段は週 4 便の定期船のみ」「村役場が島内ではなく鹿児島市にある…」など、全国でも特殊な状況にある極めてへき地度の高い村である。

3 つの島には 4 つの義務教育学校があり、約 80 名の子供たちが通っている。小さな三島村にとっては、学校の存在はとても重要であり、その存続と充実のために個性的で特色ある教育を推進しているが、特に魅力ある特色として次の 3 つが挙げられる。



- ① 山海留学制度の積極的推進（全児童生徒の 3 分の 1 が全国各地から留学してきた子供たち）
- ② アフリカの伝統民族打楽器「ジャンベ」の演奏（三島村は「ジャンベの島」として知られている。）
- ③ 日常的な遠隔教育（オンライン授業）の実践

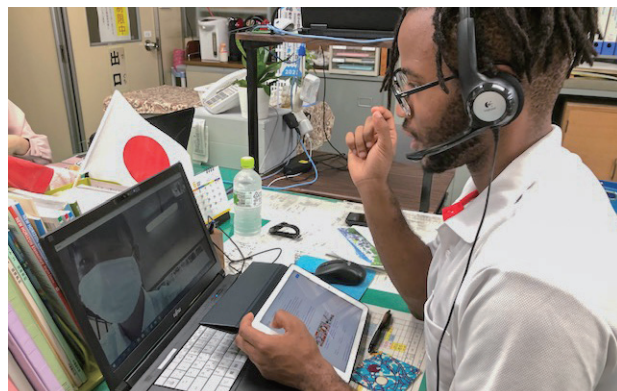
村に初めての ALT

非常に特殊な環境にある三島村に、待望の ALT を迎えることができたのは 2018 年の 8 月だった。

初めての ALT として来ていただいたのは、スティブン・マチャリア先生（USA）である。

スティブン先生には、鹿児島市に居住していただき、月に 3 回程度、それぞれの島に渡ってもらう。宿泊は民宿だ。今年でもう 4 年目になるが、3 年目は、コロナの影響で島に渡ることが制限されてしまったので、市内にある教育委員会事務局からオンライン授業で英語の授業を行っている。

三島村では、コロナ以前からオンラインによる遠隔教



教育委員会事務局で学校とのオンライン授業を行う ALT

育に取り組んでいたもので、ALT のオンライン授業は比較的スムーズに取り組むことができた。

離島におけるオンライン授業の効果

離島小規模校の三島村の子供たちは、総じて明るく素直であり、教師との関係も密接で良好な人間関係で結ばれている。個に応じたきめ細かな指導ができるなどプラスの面も多いが、人的、物的環境が限られているために、多様なものの見方や考え方を通して学習を深めたり、多くの友達と練り合い高め合ったりするような授業は難しい状況がある。そのために、学習への意欲、向上心が高まらないなどのマイナス面も見られていた。

このような実態や課題を十分に踏まえながら、そのよさを積極的に生かし、逆に「三島だからこそできる教育」をより一層重点化して推進していくために、大きな効果

を發揮するのが遠隔教育システムであると考えている。

進む ALT とのオンライン授業

三つの島を自由に行き来できない状況は、何をするにも困難な状況だが、その状況をプラスに捉える発想の転換が常に求められている。「遠隔教育システム」を充実させることは、正に三島村のような極小規模校だからこそ、その長所を遺憾なく發揮できるものである。

英語活動・英語科の中で特に「話す・聞く」の学習においては ALT との交流は欠かせない。離島であることやコロナ感染防止のために、ALT が頻りに学校に行けない状況において、「遠隔教育システム」を活用したオンライン授業は、まるですぐそばに ALT がいて会話しているかような場の設定を可能にしている。

また、オンラインで授業を行えば、ALT が学校に移動する時間が必要ないので、3、4年生の英語活動や5年生以上の英語科の毎授業時間に、短い時間ではあるが ALT との継続的な英会話活動を確保できている。

さらに、三島村の各学校は小規模校で児童生徒数が少



家庭で ALT との英会話に取り組む児童

ないことから、児童生徒が ALT と 1 対 1 の会話をする機会を多く設定できるので、一人一人の英会話力の向上につながっている。

コロナで全学校が臨時休業になった時には、家庭にタブレットを持ち帰らせ、家庭学習の中で ALT との英会話に取り組みさせることができた。

これらの取り組みは、外国語によるコミュニケーション能力を育成するという英語活動や英語科のねらいを達成するための有効な手立てだと考える。

2021 年度、三島村は、ALT を各学校の専任として 4 名配置する予定であるが、新型コロナウイルスの影響で配置できていない。いまだ終息が見通せない状況ではあるが、ピンチをチャンスに変えるという発想で、今後もオンラインによる授業の充実を図り、児童生徒の英語力やコミュニケーション能力、ICT の活用能力の育成に努めていきたい。

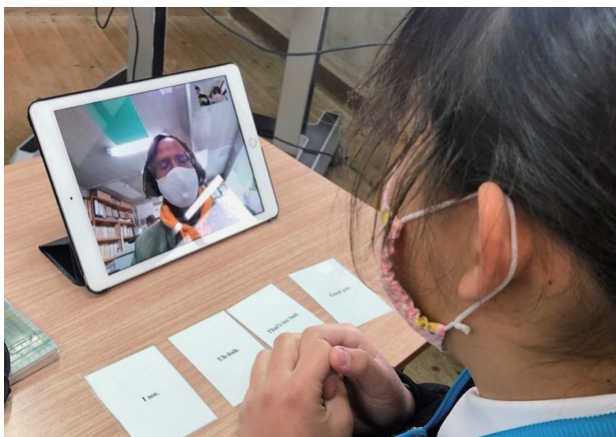
子供たちに更なる自信と夢を

2021 年 5 月 12 日、本村の三島竹島学園の子供たちは、天皇皇后両陛下の「こどもの日にちなみ御訪問」において、遠隔教育システムを活用した学習活動を両陛下の御前で披露した。その時の子供たちの堂々とした発表や両陛下からの御質問への受け答えには、これまで続けてきた取り組みによる自信と、小さな離島の学校にいても、オンラインを活用し、これからもさまざまな人とつながり、多くのことを学びたいという夢と希望に満ち溢れていた。

これからも子供たちに更なる自信と夢を与えられる教育活動を学校と共に創造していきたいと考えている。



ALT とのオンライン授業に取り組む児童生徒

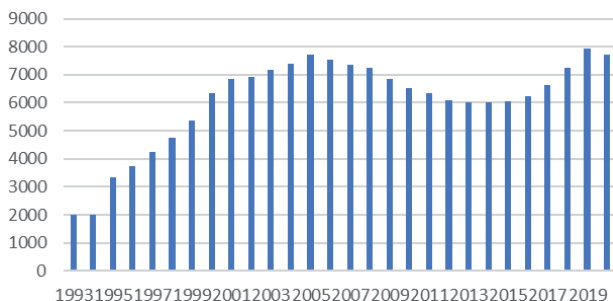


ALT と個別に対話する生徒

山形県の外国人受け入れの特徴と変化

(公財) 山形県国際交流協会では県の委託を受け、外国人相談窓口を設置し、英語、中国語、ポルトガル語、韓国・朝鮮語、タガログ語を母語とする相談員を配置、日常生活に関する困りごとなどを母国語で気軽に相談できる窓口を開設している。日本語に関しては統括相談員が対応している。それに加え、近年増加しているベトナム人の相談に対応するため、国の「外国人受入整備交付金」を活用し、「山形県外国人総合相談ワンストップセンター」を設置、ベトナム語を追加した上、企業向け外国人相談窓口を新たに開設した。

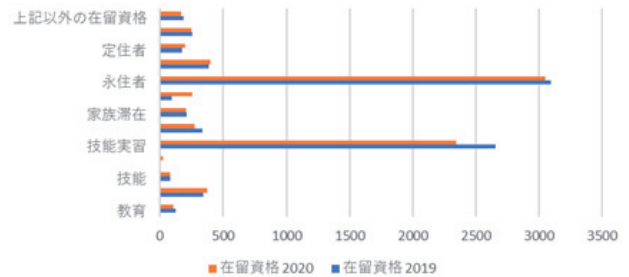
山形県の外国人受け入れが本格的に始まったのは1980年代半ばである。山形県の西村山郡の朝日町で行政主導のアジア人女性と日本人男性との国際結婚による外国人受け入れが始まり、この例は全国的にも注目を集めた。農村の花嫁不足を解消する目的で始まったアジア人女性との国際結婚は瞬間に広まった。これを機に中国、台湾、フィリピン、韓国出身の外国人女性と日本の農村の男性との結婚が増え続けた。



山形県の外国人人口の変化

このような事情から山形県における在住外国人は女性の割合が高く、2020年は外国人人口7,717人のうち65.4% (5,047人) を女性が占めている。新型コロナの影響で減少したものの、近年始まった外国人受け入れ政策によりベトナム人やネパール人が増加、県全体では85カ国・地域からの外国人が在住している。また、在

留資格では「特定技能」、「特定活動」、「技術・人文知識・国際業務」などが増えた。「技能実習」はコロナの影響で減少している。



2020年と2021年の主な在留資格の比較

多岐にわたる相談・多国籍化による多言語対応の必要性

2020年は、新型コロナウイルス関連の相談が大幅に増え、生活全般に影響を及ぼしていることがわかった。

新型コロナウイルス関連の給付金申請、PCR検査など、出入国関係の情報など各関係機関からの情報が日本語のみの場合が多く、多言語で翻訳する必要があったため、対応に追われた。

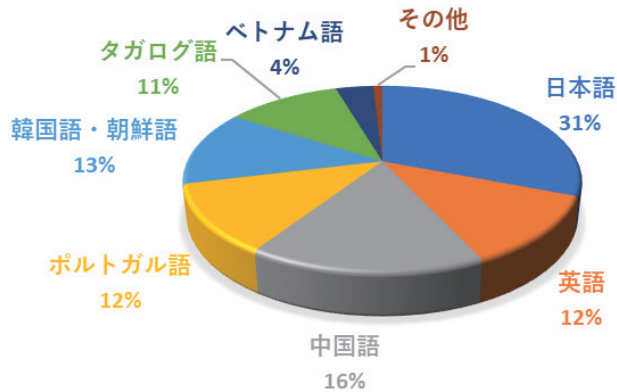
そのほか、家族間のトラブル (DV など)、職場でのトラブル (パワハラなど) が例年より深刻化し、新型コロナウイルスを機に表面化したと考えられる。こちらの相談でも多国籍化の傾向が見られた。相談全体では、生活全般に関する相談が全体の18.5%、次いで専門機関などの紹介 (17.6%)、出入国関係 (14.4%)、家庭問題 (14.0%) となっている。

言語別では、通常の言語に加え、ネパール語が例年に比べ増えており、翻訳機器のポケトークやスマートフォンのアプリを利用して対応している。

国籍別では、例年と比べ多国籍化が進み、通常対応している国以外に、国外からの電話やEメールなどによる相談を含め、12カ国の方から相談があった。このように多国籍化が進んでいる要因として、ホームページやSNS (Facebook、Twitter、Instagram) での多言語

による情報発信があげられる。

コロナ禍においては、今まで以上に必要な支援が必要な人に届くよう、国や各機関からの情報を多言語で随時掲載し、更新している。



2020年度の相談件数の言語別割合

多言語相談窓口における国際交流員 (CIR) の役割

外国人相談窓口での国際交流員の役割はさまざまである。当協会ではアメリカ出身の国際交流員が英語の相談にも対応している。よくある相談については当協会のウェブサイトやFacebookに掲載し、多くの方が共有できるようにしている。また、在住外国人のための多言語情報誌「Face To Face」を年3回発行し、山形県の文化紹介、外国人からの寄稿、相談窓口からのお知らせなどを日本語、英語、中国語、および韓国語の4つの言語に翻訳し、配布している。



多言語情報誌「Face To Face」

専門機関との連携の重要性

先述の傾向を踏まえ、県内在住外国人が法的な問題に遭遇した際に無料で法律相談ができるよう、日本司法支援センター（法テラス）の指定を受け、山形県外国人総合相談ワンストップセンター内に外国人向け法律相談窓口を開設した。月1回の開催で、離婚、DV、暴力、詐欺、法的手続きなどの相談を受け付けている。専門機関との連携が必要な相談が増えていることから、関係機関と連絡会議を開き、問題解決に向けて努めていきたい。



外国人支援関係機関連絡会議



山形県外国人総合相談ワンストップセンター